



## 2021年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年1月8日

上場会社名 株式会社チヨダ 上場取引所 東  
 コード番号 8185 URL http://www.chiyodagr.co.jp  
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 杉山 忠雄  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 澤木 祥二 TEL 03-5335-4134  
 四半期報告書提出予定日 2021年1月13日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 無  
 四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2021年2月期第3四半期の連結業績(2020年3月1日~2020年11月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年2月期第3四半期	72,153	△17.6	△1,963	-	△1,694	-	△2,662	-
2020年2月期第3四半期	87,567	△2.9	384	△85.1	860	△71.7	△188	-

(注) 包括利益 2021年2月期第3四半期 △2,859百万円(-%) 2020年2月期第3四半期 △626百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年2月期第3四半期	△74.72	-
2020年2月期第3四半期	△5.30	-

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年2月期第3四半期	103,691	65,033	60.0	1,745.17
2020年2月期	109,371	69,914	60.8	1,867.87

(参考) 自己資本 2021年2月期第3四半期 62,192百万円 2020年2月期 66,536百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年2月期	-	37.00	-	37.00	74.00
2021年2月期	-	18.00	-	-	-
2021年2月期(予想)	-	-	-	19.00	37.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

## 3. 2021年2月期の連結業績予想(2020年3月1日~2021年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	95,700	△15.7	△4,600	-	△4,400	-	△4,800	-	△134.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 有

連結業績予想の修正については、本日(2021年1月8日)公表いたしました「2021年2月期通期業績予想(連結・個別)の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年2月期3Q	41,609,996株	2020年2月期	41,609,996株
② 期末自己株式数	2021年2月期3Q	5,973,234株	2020年2月期	5,988,613株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年2月期3Q	35,632,596株	2020年2月期3Q	35,613,389株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(参考) 個別業績予想

2021年2月期の個別業績予想(2020年3月1日～2021年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	74,300	△15.5	△3,400	—	△3,800	—	△106.64

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

個別業績予想の修正については、本日(2021年1月8日)公表いたしました「2021年2月期通期業績予想(連結・個別)の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理の適用)	10
(追加情報)	10
3. 補足情報	11
(1) 個別経営成績(累計)	11
(2) 個別財政状態	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う政府の緊急事態宣言発令により、社会経済活動全体が大きく停滞し、緊急事態宣言解除後に一時持ち直しが見られたものの、未だに新型コロナウイルス感染症の収束時期が見通せず、極めて先行きが不透明な状況にあります。

当社グループが属する靴・衣料品小売業界も、生活様式が変化し、出勤や旅行など外出機会が大幅に減少したことで、特にビジネスシューズや外出着の需要が低下し、依然として厳しい経営環境となっております。

このような状況下、当社グループでは、緊急事態宣言期間中は、店舗の臨時休業や営業時間短縮などを実施しつつ、感染防止策に取り組みながら路面店舗を中心に営業を継続し、外出や出勤を必要とするお客様のための商品を供給し、本社においては、拠点分散やテレワークの推奨などにより、感染リスクの低減を図りながら、経費の削減に取り組んでまいりました。また、緊急事態宣言解除後も、営業時間短縮を継続しつつ、お客様と従業員の安全を最優先に考え、マスクの着用、飛沫感染防止シート、除菌剤の設置及びソーシャルディスタンスの確保など、感染症対策に努めながら営業し、売上の回復を図りました。

しかしながら、外出自粛による来店客数の減少や出店施設の休館に伴う店舗休業、営業時間短縮の業績への影響は大きく、広告宣伝費の削減、店舗家賃の引下げなどによる経費コントロールではカバーしきれませんでした。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高72,153百万円(前年同期比17.6%減)、営業損失1,963百万円(前年同期は営業利益384百万円)、経常損失1,694百万円(前年同期は経常利益860百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失2,662百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失188百万円)となりました。

セグメント別の業績の概要は次のとおりであります。

#### <靴事業>

靴事業におきましては、在庫鮮度の向上と在庫効率の改善を重要課題とし、新型コロナウイルスの感染拡大による外出自粛の広がりに応じて、仕入数量をコントロールし、取扱品目数を絞込み、品揃えを標準化した店舗の展開を進めてまいりました。また、8月には、仕入情報管理や在庫補充業務の精度を向上させ、商品の売価変更や店舗間移動を効率化させるための新システムを稼働させました。

販売促進策では、アプリ・メルマガ会員の新規獲得及び退会防止のため、情報配信や割引サービスの強化をし、当第3四半期連結会計期間末の会員数は658万人となりました。また、SNS戦略グループを新設して、来店されたことのない若年層などに向けた情報発信をし、新たな取り組みとして、靴の通販サイト「ロコンド」とのコラボレーションコーナーを、シュープラザ新宿東口駅前店や上野店で展開し、顧客層の拡大を図りました。一方で、感染症の流行に伴う来店客数の減少に合わせて、チラシ広告やTVCMなどを抑制し、広告宣伝費率の改善も図りました。

しかしながら、当第3四半期連結累計期間の既存店売上高は、感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令などにより、第1四半期に前年比31.0%減となり、緊急事態宣言解除後の第2四半期は1.0%減と前年並みの水準まで回復しましたが、感染症の再流行により、第3四半期には12.2%減となり、累計期間でも15.5%減となりました。そうした状況を受け、経費削減に取り組み、販売費及び一般管理費を前年同期比8.2%削減しましたが、減収による利益のマイナス分をカバーしきれませんでした。

出退店につきましては、20店舗を出店し、不採算店を中心に43店舗を閉店いたしました。これらにより当第3四半期連結会計期間末の店舗数は1,006店舗(前連結会計年度末比23店舗減)となりました。

以上の結果、靴事業の売上高は57,361百万円(前年同期比15.6%減)、営業損失は1,319百万円(前年同期は営業利益1,273百万円)となりました。

#### <衣料品事業>

衣料品事業におきましては、スローガンである「多くのお客様に信頼され、魅力あるお店作り」に取り組んでまいりました。

商品面では、外出需要の減少や天候要因により、季節商品の販売は前年を下回りましたが、ウィズコロナアイテムとしてホームウェアやマスクを投入し、女性向けに新ブランド「Howdy Marie (ハウディーマリー)」の展開を開始し、それらは堅調に推移しました。また、商品調達のリードタイム短縮や売価変更の抑制などの取り組みにより、売上総利益率の改善も図りました。

販売促進策では、チラシ広告を削減する一方で、インスタプロモーション及びモバイル会員向け、SNSのプロモーションに注力し、11月末のモバイル会員数は395万人となりました。また、EC事業では、更なる強化のため、11月にZOZOTOWNに出店しました。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染症の流行による旅行、帰省など外出需要の減少の影響は大きく、客数の大幅な減少により、売上は低調に推移しました。こうした状況を受け、経費の削減に努め、広告宣伝費を大幅に抑制し、不採算店の積極的な閉店に加えて、営業時間短縮による勤務時間調整で人件費を削減するなどして、販売費及び一般管理費は前年同期比21.3%減となりました。

出退店につきましては、10店舗を出店し、17店舗を閉店したことで、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は364店舗（前連結会計年度末比7店舗減）となりました。

以上の結果、衣料品事業の売上高は14,791百万円（前年同期比24.5%減）、営業損失は648百万円（前年同期は営業損失893百万円）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末における当社グループの総資産は、103,691百万円（前連結会計年度末比5,680百万円減）となりました。

流動資産は、70,040百万円（前連結会計年度末比4,424百万円減）となっております。これは、主として現金及び預金が34,469百万円（前連結会計年度末比5,940百万円減）、商品が29,301百万円（同291百万円減）、受取手形及び売掛金が4,068百万円（同1,404百万円増）となったことによるものであります。

固定資産は、33,651百万円（前連結会計年度末比1,255百万円減）となっております。これは、主として建物及び構築物（純額）が2,647百万円（前連結会計年度末比587百万円減）、敷金及び保証金が11,465百万円（同452百万円減）、繰延税金資産が3,933百万円（同192百万円減）となったことによるものであります。

### (負債の状況)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、38,657百万円（前連結会計年度末比799百万円減）となりました。

流動負債は、25,346百万円（前連結会計年度末比1,005百万円減）となっております。これは、主として支払手形及び買掛金が5,365百万円（前連結会計年度末比1,705百万円減）、未払消費税等が73百万円（同413百万円減）、1年内返済予定の長期借入金が1,215百万円（同1,155百万円増）となったことによるものであります。

固定負債は、13,310百万円（前連結会計年度末比205百万円増）となっております。これは、主としてリース債務が1,545百万円（前連結会計年度末比926百万円増）、退職給付に係る負債が7,998百万円（同418百万円増）、長期借入金が1,200百万円減少したことによるものであります。

### (純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、65,033百万円（前連結会計年度末比4,880百万円減）となりました。これは、主として利益剰余金が60,246百万円（前連結会計年度末比4,636百万円減）、非支配株主持分が2,638百万円（同515百万円減）、その他有価証券評価差額金が916百万円（同244百万円増）となったことによるものであります。自己資本比率は60.0%（前連結会計年度末比0.8ポイント減）となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、本日(2021年1月8日)公表いたしました「2021年2月期通期業績予想(連結・個別)の修正及び特別損失計上に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が長期化することで、当社グループの業績に影響を及ぼすリスクがありますが、お客様と従業員の安全のための感染症拡大防止策を講じながら営業を継続し、あわせて、経費削減にも努めてまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	40,410	34,469
受取手形及び売掛金	2,663	4,068
商品	29,593	29,301
その他	1,803	2,207
貸倒引当金	△6	△6
流動資産合計	74,465	70,040
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,235	2,647
工具、器具及び備品（純額）	853	676
土地	4,144	4,144
リース資産（純額）	748	685
その他（純額）	22	0
有形固定資産合計	9,004	8,153
無形固定資産		
投資その他の資産	4,677	4,899
投資有価証券	3,018	3,184
敷金及び保証金	11,918	11,465
繰延税金資産	4,126	3,933
その他	2,164	2,017
貸倒引当金	△3	△3
投資その他の資産合計	21,224	20,597
固定資産合計	34,906	33,651
資産合計	109,371	103,691



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,071	5,365
電子記録債務	13,458	13,487
ファクタリング債務	149	124
1年内返済予定の長期借入金	60	1,215
リース債務	432	596
未払法人税等	139	186
未払消費税等	486	73
賞与引当金	399	87
店舗閉鎖損失引当金	40	106
ポイント引当金	20	7
リース資産減損勘定	5	9
資産除去債務	49	90
その他	4,038	3,998
流動負債合計	26,352	25,346
固定負債		
長期借入金	1,200	—
リース債務	619	1,545
繰延税金負債	61	41
退職給付に係る負債	7,580	7,998
役員退職慰労引当金	12	11
転貸損失引当金	183	159
長期預り保証金	545	539
長期リース資産減損勘定	20	48
資産除去債務	2,384	2,359
その他	497	606
固定負債合計	13,105	13,310
負債合計	39,457	38,657

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,893	6,893
資本剰余金	7,483	7,483
利益剰余金	64,882	60,246
自己株式	△13,345	△13,310
株主資本合計	65,913	61,312
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	671	916
繰延ヘッジ損益	0	△0
退職給付に係る調整累計額	△49	△37
その他の包括利益累計額合計	622	879
新株予約権	223	202
非支配株主持分	3,154	2,638
純資産合計	69,914	65,033
負債純資産合計	109,371	103,691

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年11月30日)
売上高	87,567	72,153
売上原価	46,887	38,476
売上総利益	40,680	33,676
販売費及び一般管理費	40,295	35,639
営業利益又は営業損失(△)	384	△1,963
営業外収益		
受取利息	15	11
受取配当金	52	44
受取家賃	571	545
その他	355	335
営業外収益合計	994	936
営業外費用		
支払利息	13	10
不動産賃貸費用	459	440
その他	45	216
営業外費用合計	518	667
経常利益又は経常損失(△)	860	△1,694
特別利益		
固定資産売却益	6	0
投資有価証券売却益	—	264
違約金収入	—	1
受取補償金	—	45
特別利益合計	6	311
特別損失		
固定資産除却損	27	11
投資有価証券評価損	—	14
減損損失	805	993
店舗閉鎖損失	57	26
店舗閉鎖損失引当金繰入額	39	82
リース解約損	0	107
その他	—	54
特別損失合計	929	1,290
税金等調整前四半期純損失(△)	△63	△2,673
法人税、住民税及び事業税	617	390
法人税等調整額	5	54
法人税等合計	623	445
四半期純損失(△)	△686	△3,118
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△498	△456
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△188	△2,662

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)
四半期純損失(△)	△686	△3,118
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	25	244
繰延ヘッジ損益	△1	△0
退職給付に係る調整額	35	14
その他の包括利益合計	60	258
四半期包括利益	△626	△2,859
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△138	△2,405
非支配株主に係る四半期包括利益	△487	△454

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症拡大が当社グループの業績に与える影響について、当連結会計年度末以降緩やかに回復するという想定に基づき、固定資産の減損損失の計上要否の判断及び繰延税金資産の回収可能性の判断について会計上の見積りを行っております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の収束時期は不透明であり、今後の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を及ぼす可能性があります。

3. 補足情報

2021年2月期第3四半期の個別業績(2020年3月1日～2020年11月30日)

(1) 個別経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年2月期第3四半期	57,361	△15.6	△1,430	—	△1,078	—	△1,902	—
2020年2月期第3四半期	67,974	△2.0	730	△73.5	1,994	△42.1	983	△63.2

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年2月期第3四半期	△53.39	—
2020年2月期第3四半期	27.61	27.50

(注) 2021年2月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年2月期第3四半期	88,171	58,818	66.5
2020年2月期	92,546	62,435	67.3

(注) 四半期個別財務諸表は、法定開示におけるレビュー対象ではありません。